

•下記の講演を見て、あなたが2050年までにやってみたいことをまとめて提出しなさい。

—中村哲氏の記念講演 (32')

•【[京都環境文化学術フォーラム](#)】(2017年2月11日)

中村哲さんはもともと医師であり人々の命を救うことに尽力していたが、100の診療所より1本の用水路をとるという考えをもち、用水路建設に励み実際に成果を残していた。私が中村哲さんのすごいと思ったところは、アフガンの人のためなら死んでもいいと思うほどの人々への思いの強さと、自身の専門分野でないアプローチでもいとわぬ行動力である。

自分自身国際開発に興味があり、世界の人々の暮らしに役立ちたいと思い、国際開発農学専修を選んだ。しかし、国際開発の厳しさを色々な教授の話をきいて痛感し、自分はその大変さを乗り越えるほどの強い意志が足りないと感じ、結果として国際開発には関係のない企業に就職することを決めた。だから、中村哲さんの「アフガンの人のためなら死んでもいい」という言葉に心の底からすごいと思うと同時に、自分にはそこまではできないという気持ちをもった。

また、私が国際開発とは関係のない進路を選んだ理由の一つに、なんの技術力をもたない自分にながでできるかということも大きかった。中村さんは元々医学の知識と技術を持っていたが、そのアプローチではアフガンの人々の命を救うという目的は達成できないと感じたときにそれでは自分に何もできることはない諦めるのではなく、今まで学んでいない農業土木を一から学んで水路を作った。私よりも何十歳も年上の中村さんが足りない知識を一から学んでいるのに、いま私にはなにもできないと思ったことはただ学ぶ意欲がたりなかつただけだと痛感した。進路選択当時よりは研究で自分はこれができるという知識や技術を身に着けたが、そういった自分の専門にとらわれずに、中村さんのように新しい分野でも臆せず学んでいく姿勢を持ちたい。

また、この授業で国際開発に興味がある他分野の学生でたくさんディスカッションをしたことで、「自分自身国際開発に興味があり、世界の人々の暮らしに役立ちたい」という思いを持っていたことを改めて思い出した。2050年までに、就職先やその他の場面でも分野にかかわらず様々な知識や技術を吸収し、国際的な貢献に役立てるようになりたい。国際開発の現場に直接関わることがあるかはわからないが、柔軟に対応できる技術力や知識を蓄えて社会貢献に生かせる人材になりたい。